

はじめに

礼拝のはじめに以前にも紹介されたことのある動画を見ました。暗い部屋で戦争ゲームらしきテレビゲームに夢中の男の子。少年の目の前に母親がプレゼントだと箱を置きます。はじめは無視してゲームを続ける男の子ですが、少し気になって箱を開けると可愛い子犬が顔を出しました。抱き上げると、その子犬は左前足がありませんでした。その姿を見た途端、少年は子犬を乱暴に床に放り出し、またゲームをはじめます。

放り出された子犬はというと、無邪気な表情でボールを見つけ、少年のところに持ってきて遊んでとせがみます。あっちに行け！と言わんばかりにボールを蹴飛ばす少年。前足のない子犬は、転びながらも無邪気に追いかけます。転んでも気にすることなく、無邪気にふるまうそんな子犬の姿を見ていた少年の表情がだんだんと変わります。

…そして、子犬と遊ぶために立ち上がった少年は子犬と同じように左脚がありませんでした。

少年は子犬と一緒に遊ぶために暗い部屋から明るい外へ出ていきました。

母親は子どもに対して喜ぶことをしてあげることや厳しく言うこともできましたが、少年が障害をもっていたとしても、明るい世界へ出て喜んでいられることを願い、少年にとって同じ境遇の子犬をプレゼントするということを通して最善のケアの仕方を選びました。

この母親は問題に対して最善の決断に導いたのです。

あなたにはどんな問題があり、その問題をどう解決していますか？

問題に対して

この時代、教会の中で間違った議論に進んでいくことが問題になっていました。

当時、たくさんのやもめが教会にいて人々を支えそしていろんな世話をするという役割があり教会も彼女たちを養うという良い共存関係がありました。

その一方で、自分の役割を果たさないやもめの問題もありました。彼女たちは、本来の役割を果たさず、怠けるだけでなく家々を周りうわさ話や話してはいけない事を話したりし、教会でも問題になっていました。

今日の聖書箇所では、このやもめの問題に対してパウロは触れています。これは現代の私達にも通ずる問題でもあります。

『良い行いによって認められている人、すなわち、子どもを育て、旅人をもてなし、聖徒の足を洗い、困っている人を助けるなど、すべての良いわざに励んだ人にしなさい。』テモテへの手紙 第一 5:10』

パウロが伝えたいことは、人はこの10節のように生きるべきだと言っています。

本当のやもめ VS 自堕落な生活をしているやもめ

「やもめ」とは主人を何らかの理由で失った婦人のことです。この時代背景に「やもめ」の問題があっただけで、ここに書かれていることは、人間誰にもある弱さであります。そしてやもめとは、願っていたものが失われた環境のある人とも言い換えることができるでしょう。ですから私たちはこの「やもめ」の記事を自分として見ていくことができます。本当のやもめは『望みを神に置いて、昼も夜も絶えず神に願いと祈りをささげています』(I テモテ5:

5) しかし、自堕落な生活をしているやもめは『生きてはいても、もう死んだ者なのです。』(I テモテ5:6)とあります。私たちは、望みを神に置いて、願いと祈りを捧げているでしょうか？それとも自堕落な生活をしているやもめのようになっていませんか？

目を向けるべき大切なこと

私たちが本当のやもめのようになるために、まず、自分自身です。あなたは願いを失った時、思うようにいかなかった時、『そのうえ、怠けて、家々を遊び歩くことを覚え、ただ怠けるだけでなく、うわさ話やおせっかいをして、話してはいけないことまで話します。』(5:13) 果たすべき責任を果たさず、うわさ話やおせっかいをしていませんか？また、人に寄り添う時、その人が、本当の姿になるように向き合います。起きている問題に対して本来の姿に促す(勧める)ことが大切です。

まとめ

『私は、神とキリスト・イエスと選ばれた御使いたちとの前で、あなたにおごそかに命じます。これらのことを偏見なしに守り、何事もかたよらないで行いなさい。』(I テモ 5:21)

パウロは問題を解決する時に願いを持ちました。神様の前にあなたは今正しいでしょうか。ズレてはいないでしょうか。墮落的な生き方に陥ることのないように願いたいのです。今あなたがとっている行動は本当にその人を活かす行動でしょうか。

誰かが犠牲にならないと分からない世の中でイエス様は人間の愚かさを教えるために前もって犠牲になりました。神の目線になって物事を判断しているでしょうか。私たちの目は既にズレていることを知らなければなりません。私たちの口は既にもう言ってはならないことを言っているのです。この手は十字架に背いているのです。

自分は正しいのだと思った時からもうすでにそれは罪なのです。人を裁く言葉があなたを裁かせます。しかし、人を活かす言葉は多くの言葉によってあなたが活かされるようになるでしょう。偏った帰属意識の故に敵味方を作ってしまうのではないでしょうか？

私たちはイエスキリストを待つやもめです。そのことを受け取りましょう。そして、キリストの花嫁として、本当の姿・回復すべきところ・願い・希望をもって、愚かな言葉を口にせず、神に望みを置いて祈るものとなりましょう。『まことに、あなたがたに言います。何でもあなたがたが地上でつなぐことは天でもつなぐれ、何でもあなたがたが地上で解くことは天でも解かれます。』(マタ 18:18)